

市区町村名	愛媛県 八幡浜市	担当部署	産業建設部農林課 世界マーマレード大会推進室
		電話番号	0894-22-3111

1 取組事例名
マーマレードの聖地「やわたはま」へ ―世界大会誘致を通じた地域ブランド戦略―

2 取組期間
令和元年度～（継続中） （大会の開催準備は平成 29 年度から実施。）

3 取組概要
<p>八幡浜市では、英国発祥の世界的なマーマレードコンテストを日本に誘致した「ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」を開催しています。全国から 1,600 作品以上のマーマレードが集まるこの大会の開催を通じて、企業からの協賛や地域住民らによる PR 活動、マーマレードの専門家（料理講師等）によるレッスンなど、地域の枠を超えた官民一体となった事業運営により、柑橘王国“愛媛・八幡浜”の新たな魅力を発信しています。</p>

4 背景・目的
<p>【市の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛のみかんの約半分が八幡浜市で収穫されていることはあまり知られておらず、ブランディングが課題 ・市では 6 次産業化を推進するため、2017 年に八幡浜市農産物加工施設を開設しました。 <p>【大会の誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国のマーマレード大会で金賞を受賞された市民の方から「大会を誘致してはどうか？」と相談があった。 ・マーマレード大会（正式名称：ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル）は、英国の湖水地方にあるダルメイン地方で 2006 年から開催しているマーマレードの世界最大級のコンテスト。 ・日本からの出品が多く、質も高いことから、主催者が日本での開催を切望されていることから、愛媛産・八幡浜産の柑橘ブランドの一層の向上を図るため誘致活動を行い、在英日本国大使館職員の皆様をはじめ多くの関係者のサポートを頂き、2018 年初頭に八幡浜市での日本大会開催が決定した。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛産・八幡浜産の柑橘類のブランドイメージの一層の向上を図る。 ・八幡浜の知名度向上、地域経済の活性化、観光振興に寄与することにより、マーマレードの聖地を目指す。 ・様々な種類の柑橘を生産する日本ならではのマーマレードの祭典として、マーマレード作りの楽しさ、奥深さといった魅力を日本中・世界中に広めていく。

5 取組の具体的内容

① マーマレードアワード

- ・柑橘産業の振興のため、柑橘の加工品であるマーマレードのコンテストを開催。
- ・マーマレードの製造を事業にしている「プロの部」と、どなたでも出品可能な「アマチュアの部」を設け、各部門には柑橘の種類等によってカテゴリーを分けており、アマチュアの部では更に年代や地域に特化したユニークなカテゴリーを設けている。
- ・最終審査員には各界で活躍されるパティシエやシェフといった食のプロたちにご協力いただき、出品された全ての作品について、審査員が試食審査し、点数とコメントが記入されたスコアカードを返却する（アマチュアの部は1次審査あり）。
- ・今年開催した第4回大会では、全国44都府県及び台湾から1,641作品（628人）の出品があった。
- ・プロの部で受賞した作品には、食のプロに認められた証としてラウンデル（受賞シール）を貼って販売可能。シールを貼ることで売り上げ増につながる。

【第4回大会（2022） 最終審査員】

* 審査員 *

日本人審査員は五十名順

英国大会の審査員、その他各界で活躍されている方々にお集まりいただき、見た目や香り、味などをもとに審査を行います。



ジェーン ハーゼル マコシュ
英国大会主催者



ダン レパード
英国大会審査員



池田 浩明
ブロッサム（リンゴ）
パンダの主宰



伊藤 文明
パティスリー・メゾン
ス オーナーシェフ



宇都宮 勝博
アボカド株式会社



宇戸平 智子
元 ローズベーカー
パティシエ



金子 博文
銀座フエルト
シェフパティシエ



岸本 直人
naohito.k
オーナーシェフ



木村 宗慎
英道別荘会 主宰



浅田 香織
フーデナビゲーター



鈴木 弥平
ピアンヌズキ
オーナーシェフ



高橋 葉津子
tsuyuko.t
スーシェフ



平岩 理緒
スイーツジャーナリスト

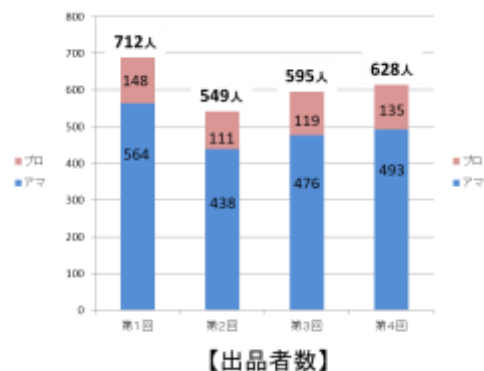
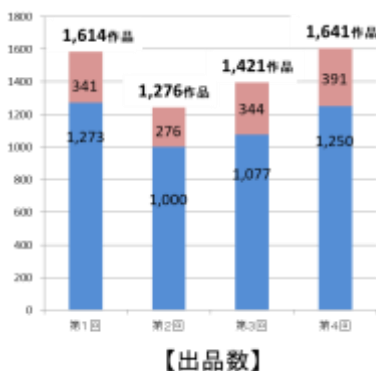


森平 和歌子
フルーシブプランナー

* 協賛 / 後援 *

協賛は五十名順

【出品数の推移】



【ラウンデル】



②マーマレードフェスティバル

- ・道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」にて表彰式を開催。県内外から多くの関係者が来場。
- ・出品されたマーマレードの展示やステージイベント、マーマレードレッスン開催により、来場された多くの方にマーマレード・柑橘の魅力を発信。
- ・協賛企業や地域住民らが出店しているブースでは、大会に合わせて自主的に開発していただいたマーマレードを使用したスイーツなどが販売され、大会をともに盛り上げていただいた。

【第4回大会（2022） 表彰式】



【第4回大会（2022） 会場の様子】



③市民参画型のイベント実施

- ・自分たちも大会に関わりたい、地域を盛り上げたいとの思いを受け、市民自らが企画・実施する大会を盛り上げるための地域イベントを募集（上限10万円を補助）。
- ・第4回大会では、地元の商工会議所や市民団体等から提案のあった全ての事業（9事業）を実施。

④出品料の一部を寄附

- ・英国大会に倣い、アマチュアの部の出品料（1,500円/品）は、全額寄付することとしている。
- ・第1回大会（2019）は、1,909,500円を平成30年7月豪雨災害への支援金として愛媛県内で特に被害の大きかった宇和島市、大洲市及び西予市に寄付。
- ・第2回大会（2020）は、新型コロナウイルス感染症により中止
- ・第3回大会（2021）は、1,602,136円を市内の障がい者就労支援施設に寄付。第4回大会も同様の予定。

【寄付金贈呈】



④マーマレード普及に向けた取り組み

・単にイベントを開催するだけでなく、市民の方々がマーマレードをより身近に感じてもらい、マーマレードのまちとしての意識を醸成するため、5月14日を「マーマレードの日」と定め、マーマレードに関連した取り組みを実施。

(1) 市内の農家女性団体が中心となって組織する「NPO 法人みかんの花工房」が作ったマーマレードマフィンを、市内全ての幼・保・小・中学校に配布し、八幡浜産の柑橘、マーマレードへの愛着を育んだ。

(2) 日本郵便(株)と連携し、観光施設等のポストをオレンジ色に塗装、大会ロゴマークを貼付したオレンジポストの設置やオリジナルフレーム切手を作成することで、年間を通してマーマレードのまちとしてのPRを図った。

(3) 大会開催を機に、関係者らで創設された「(一社) JAPAN マーマレード協会」が中心となり、愛媛大学や地元の高校でのマーマレードに関する講習や、英国主催者らとのオンラインでの交流を図った。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

◇マーマレードを身近に感じてもらうため、「マーマレードの日(5/14)」を設け、マーマレードを使ったお菓子の配布やオレンジポスト（郵便差出箱をオレンジ色に塗装したもの）の設置、オリジナル切手の作成などを行った。

◇全国の調理関係の大学等に案内文書を送付することで、ピンポイントに情報を発信した。

◇すべての作品について詳細な審査結果を返却することで、大会への信頼性を高めるとともに、次回も挑戦しようという意欲を高める。

◇市内の商工会議所、商店街等の代表者からなる実行委員会形式をとり、企画段階から携わっていただくことで、官民一体となったイベント運営を図った。また、日本大会誘致にご尽力いただいた元駐英全権大使である鶴岡公二氏を特別アドバイザーに迎え、英国主催者と密に連携を図った。

◇これまで市の事業では、大規模な協賛は募っていなかったが、本大会では、ジャム業界のトップ企業であるアヲハタ(株)や日本航空株式会社など、多数の企業から協賛をいただくとともに、PR面でも連携しながらともに大会を運営してきた。

◇第1回大会では、ガバメントクラウドファンディングを活用するなどの取り組みにより、庁内で実施している単発のイベントと比較しても市の支出は抑えられている。

第3回大会の実績：事業費 16,371,692 円 うち市からの補助金 4,000,000 円

7 取組の効果・費用

◆6次産業化の推進：

地元農家を作るマーマレードが受賞を機に売り上げが急増し、廃校を改修しマーマレード製造を本格化。それまでは道の駅等で数瓶単位だったものが、都市部の企業等から数百瓶単位での受注につながった。

◆柑橘産業の振興：

- ・多種多様なマーマレードが集まることで、柑橘の新たな魅力を発信。
- ・全国的には知られていないご当地の柑橘や、生産量が減少し絶滅の危機にある柑橘が使われることで、全国各地の柑橘を知る機会を創出。
- ・大会での受賞を機に、起業につながった。

◆慈善団体への寄付：

出品料の一部を慈善団体へ寄付することとしており、これまでH30年7月豪雨災害支援、障がい者就労支援に寄附。第3回までの総額：3,511,636 円

◆英国との交流促進：

- ・英国主催者との交流を重ねる中で、在英日本国大使館で日本大会（八幡浜）をPRする機会を頂いた。
- ・日本大会を機に英国主催者が令和元年度外務大臣表彰受賞。また、近年では英国大会への日本からの出品が増加しており、かつ品質がよいことから受賞作品の6割を日本が占めるほどになった。
- ・英国のペンリス市（英国大会の開催地）の小学生たちから市内の小学生たちにビデオレターを送ってもらうなど、地域同士の交流のきっかけにもなった。

◆知名度向上：

- ・全国放送の番組にも取り上げられた。また、全国の受賞者が地元のメディアに取り上げられることで、開催地として愛媛県・八幡浜市の知名度向上につながっている。
- ・近年では台湾からの出品も増えてきている。（プロ：6事業者、アマチュア：8人）

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ◇英国ではセビルオレンジを使った高糖度のマーマレードが基本である一方、日本では多種多様な柑橘を使った低糖度のマーマレードが多いため、英国側、審査員と連携をとりながら審査基準の摺合せを行った。英国大会の枠組みを基に、カテゴリーの設定など日本大会仕様にブラッシュアップしながら運営している。
- ◇第2回大会（2020）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全ての事業を中止した。中止と決定する前にマーマレードの受付を始めており、出品いただいたマーマレード1,276作品と出品料を全て返還した。お礼状と記念品を添えて丁寧に対応することで、引き続きの出品につながった。

9 今後の予定・構想

- ◆これまでの活動が英国主催者に認められ、当初2021年までの契約であったが、さらに3年間（2023-2025）は八幡浜市で引き続き日本大会を開催していくことが決定した。
- ◆更なる交流の促進のため、市内の中学生を英国に派遣することも企画している。
- ◆今後も関係団体と連携を図りながら、大会の開催地として「マーマレードのまち八幡浜」として地域ブランド確立に向け取り組んでいきたい。
- ◆受賞作品の販路拡大支援など、ビジネスに繋げる仕組みを確立し、柑橘産業の高付加価値化に結び付けていきたい。

10 他団体へのアドバイス

安易に業務委託するのではなく、できる限り職員自らが運営（アワード部門は全て直営）することで、大会運営のノウハウを蓄積するとともに、出品者や審査員等の関係者と円滑なコミュニケーションを図ることができました。

企業協賛については、市長自ら依頼に赴いていただくことで、金額換算で年間約1,300万円の協賛をいただくことができました。

11 取組について記載したホームページ

ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会 公式ホームページ

<http://marmalade-festival.jp/>